

## 光反応性ピロール誘導体の合成と性質

大西保志\*<sup>1</sup> 吉元昭二\*<sup>1</sup> 成瀬 勉\*<sup>2</sup>

Synthesis and Properties of Photosensitive Pyrrole Derivatives

Yasushi OHNISHI, Shoji YOSHIMOTO and Tsutomu NARUSE

スピロピランとピロールカリウムのテトラヒドロフラン中での加熱反応によって、スピロピランのピラン環の二重結合にピロールカリウムが付加し、ピロールの窒素原子に置換基を持つ新規なピロール誘導体が得られた。

この化合物は、ピラン構造が無くなるため、スピロピラン-メロシアニンの構造変化によるフォトクロミズムは示さないが、媒体中での紫外光照射によって、新たな構造の化合物に変化し、光反応性を持つことが見いだされた。また、熱的にも同様な変化が起こり、これらの光または熱による構造変化を利用することによって、情報変換材料や記録材料としての応用が可能であると考えられる。

---

\*<sup>1</sup> 材料部 \*<sup>2</sup> 企画普及室